

3月 コミュニケーションについて



春の香りが漂ううらぎんの時季となりました。3月3日はひなまつりですが、耳の日でもあります。

耳の日は、難聴と言語障害をもつ人々の悩みを少しでも解決したいという、社会福祉への願いと「み(3)み(3)」の語呂合わせから、昭和31年に社団法人(当時)日本耳鼻咽喉科学会が制定しました。

耳は、音や声を聞いたり、身体のバランスをとるのに大切な働きをしています。今回は、「聞くこと」にちなんで、コミュニケーションに関するデータを紹介します。

＜身近な友人や知人とのコミュニケーション手段(目的別)＞

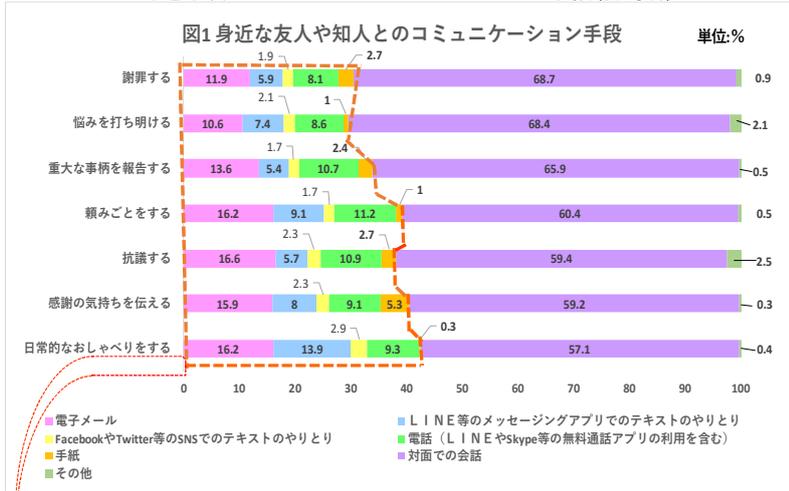


図1は身近な友人や知人と1対1のコミュニケーションを行う際、どのような手段を最も頻繁に利用しているか尋ねた調査結果です。いずれの場面についても最も多かったのが「対面での会話」であり、電子メールやメッセージングアプリ等のICTサービスが普及しても、やはり対面での会話が身近な友人・知人との最も一般的なコミュニケーション手段であることがわかります。

場面別にみると、「対面での会話」の比率が少ないのは「日常のおしゃべり」(57.1%)であり、反対に「対面での会話」の比率が高いのは「悩みを打ち明ける」(68.4%)、「謝罪する」(68.7%)であり、深刻な場面では、対面でのコミュニケーションを選択する人の割合が高いことがわかります。

次に、図1の調査結果から「対面での会話」以外のコミュニケーション手段を利用している人の年代別構成比を図2・3・4で見てみましょう。

＜身近な友人や知人とのコミュニケーション手段>
(対面での会話を除く)

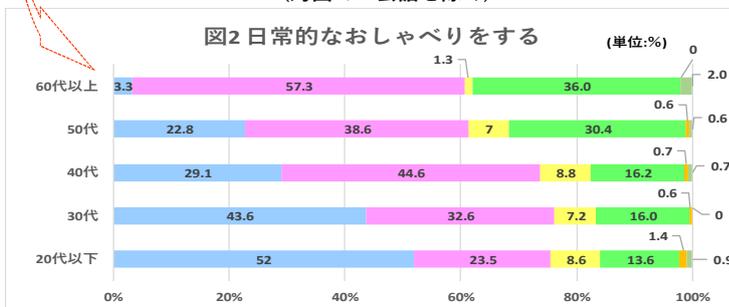
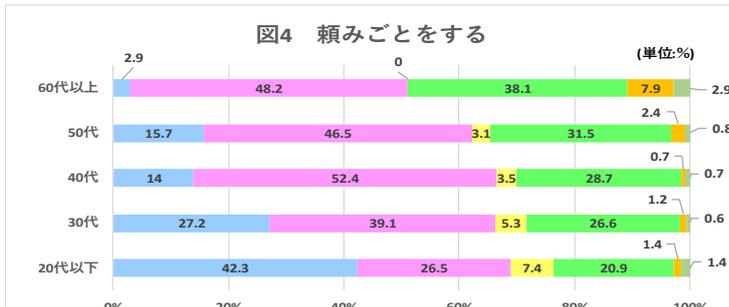
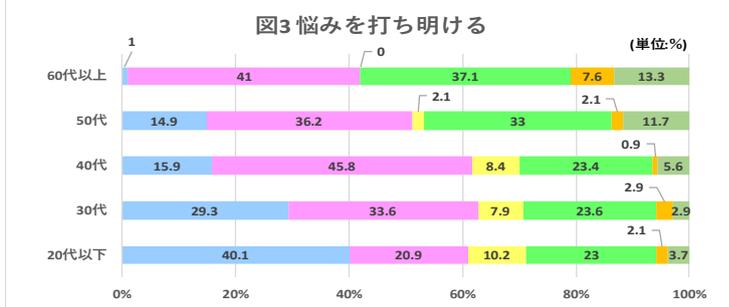


図2・3・4のいずれの場面においても、若い世代ほど「LINE等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり」、「電子メール」、「SNS」を利用する割合が高くなっていることがわかります。また、「電話」を最も頻繁に利用する割合は、図2・3・4いずれの場面においても60代以上であることがわかります。

コミュニケーションをとる上で、大事なものは「聞く力」といわれています。多くの聴覚障がい者は、手話、筆談、口話など、話す相手の状況に応じてコミュニケーション方法を使い分けています。「相手の話を正しく理解する力」なども含めて、耳の働きは重要なことです。「耳の日」にちなんで、皆さんもたまには耳をいたわってみてはいかがでしょうか。



- LINE等のメッセージングアプリでのテキストのやりとり
- 電子メール
- FacebookやTwitter等のSNSでのテキストのやりとり
- 電話 (LINEやSkype等の無料通話アプリの利用を含む)
- 手紙
- その他

資料：総務省「平成27年度情報通信白書」より

